

地盤知識や新工法など学ぶ

GEOTETS（ジオテツ）工法研究会は24日、福岡市のアクロス福岡で「建設技術講習会 in FUKUOKA」を開いた。会場とウェブを合わせて約50人が参加し、地盤に関する専門知識や新工法、最新のインフラ点検技術の理解を深めた。写真。冒頭、同研究会の西靖彦顧問は「幅広くいろいろな技術を学んでいただく趣旨で開催した。意見交換も含め気軽に学んでほしい」とあいさつした。



引抜同時充填（じゅうてん）工法は、鋼矢板やH鋼などの土留め材を地中から引き抜くと同時に、引き抜き後の空洞に下から充填材を注入し、早期に固めることで地盤沈下を抑制する工法だ。周辺の建物や道路の損傷を防ぐ。従来は残置していた土留め材を回収・再利用でき、コスト削減や環境配慮につながる。遮水性を生かした土壌汚染対策も期待でき、住宅が密集する市街地などで活用が進む。

西顧問は「地盤沈下に伴う陥没

ジオテツ研究会が講習会

被害などといった社会課題の解決にもつながると説明。充填材は土と同程度の固さのため「将来的な撤去も容易で、公共空間などでも障害物にならない」とした。現在は、生分解性樹脂を使った透水性GEO壁の開発を進めており、現地検証を重ねて普及を目指す。

このほか、横田漢宮崎大名教授が「重金属の発生とその不溶化」、東北大未来科学技術共同研究センター特任教授を務める面政也XMAT代表取締役が「非破壊検査と拡張現実技術を融合したインフラ点検システム」をテーマに講演した。

